

第40回

うつのみやこども賞だより

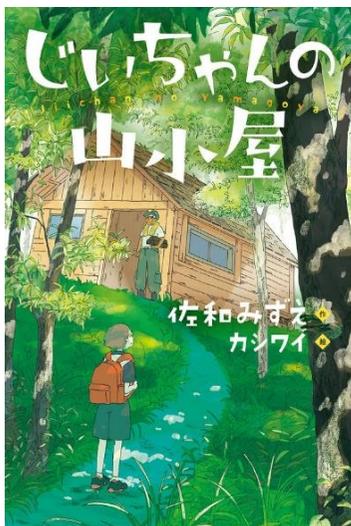
令和5年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『じいちゃんの山小屋』

佐和 みずえ／作 (小峰書店)



令和5年6月4日

～読んだ本の感想よ～

- じいちゃんの、ぶきようでやさしい所や、山小屋での暮らしなど、物語の世界感が、とてもみりよくてきて、入ってみたいになりました。
- みつばちどろぼうを2回目に航太とその友達3人でつかまえるのがすごいと思った。
- 航太がじいちゃんとの山小屋生活になれていたの、私もいつか山小屋にすんでみたいと思いました。
- お父さんとけんかをしておじいさんの家に来た航太は、いじめをはねのけ、しかも、いじめっ子を友達にした所がすごいなと思った。
- 山小屋に住んでまきをわって火をおこしてお風呂をわかしたりしてなかなかできない手つだいをしているのがいいなと思いました
- 一人でどうくつに行ったり、いろいろな事をおじいちゃんとしているのにあこがれました。
- 友だちが増えて、本当に帰るのか気になった。

『ばーちやる』 次良丸 忍／作 (金の星社)

- ばーちやるが、自分だけの思い出がほしいといった所に感動した。
- ばーちやるは物にはさわれないけど、心はあるということがおもしろいです。
- ばーちやるは、機械で映像だけど、温かさが感じられました。
- 死んだおばあちゃんとの問題がある中で、ばーちやるがやってきて、死やばーちやるとは何なのかについて向き合っていて考えさせられた。
- ばーちやるがだんだん自分は航太のおばあちゃんじゃないことに気がついたり、いやなきおくをおもいだしたりしたときはどきどきした。また、ばーちやるが航太の家へ戻ってくるといいと思った。

『晴さんのにぎりずし』 佐川 芳枝／作 (佼成出版社)

- 久絵は自分のせいでお母さんが事故にあったなどといわれたのに、お母さんたちになにもいわずがまんしていたのはすごいと思った。
- 女性がおすしをにぎるのは、別にわるいことじゃないし、この本を読むことで、おすしやさんになることもいいなと思えた。
- クラスメイトのいじわるに負けないで！という晴さんがかっこよかったし、すてきだった。
- 誕生日に食べるものがお寿司と知ってがっかりしていたけど、晴さんがクエをにぎってくれて、帰り道に家族全員クエが一番おいしかったといたのがよかったと思う。

『救助犬の弟子』 堀 直子／作 (新日本出版社)

- スカウト？されても自分の家の犬にしたいと言っていて、すごいなと思った。
- さくらがタニーを思う気持ちに感動した。タニーとコスモスのコンビはよかったと思ったのに咲良を選んだのがびっくりした。
- 訓練をたくさんして、救助犬になるのは、大変だと分かりました。
- 捨てられていたタニーだが、咲良のおかげで幸せになれてよかった。
- 救助犬と警察犬が同じだと思っていたからおどろいた。